音楽科における「大阪市スタンダード授業モデル」の作成と実践的活用を通した検証

学籍番号　159965
氏　名　出口 みか
主指導教員 森田 英嗣 教授

１．はじめに

中学校の音楽科教員として18年間務めた後、指導主事を拝命し大阪市教育センターに赴任し、教科担当指導主事として小中学校の音楽科授業について「音楽の授業を通してどのような力を身につけさせなければならないのか」「音楽科における学びとは何なのか」と改めて考えることとなった。

２．背景

2.1 大阪市の現状と取組

大阪市においては、ここ 10 年続く教員の大量退職に伴う大量採用により、採用後 10 年未満の教員が全教員の半数以上を占め、学校現場における、いわゆるベテラン教員からの指導技術の継承の機会がますます減少する現状を鑑みることから、若手教員の授業力や指導力を向上させる必要がより強くなった。さらに、教育研究会や各学校において積み重ねられてきた優れた指導技術や実践事例等を集約し、「大阪市スタンダード授業モデル」を策定する。

2.2 音楽科の現状と取組

小学校音楽科で指導すべき目標を達成するために、音楽を単に楽しむだけの活動に終わるのではなく、楽しみながらも確実な学びを得ることが必要である。また、他の都道府県市と比較し大阪市においては、音楽専科教員の配置がほとんどなく、大半の学校において全学年で学級担任が音楽科の指導を行っている。

３．音楽科（小学校）のモデル作成

3.1 教育研究会との連携

作成最初のモデルは、音楽科では「基礎・基本」も含めると５つになる領域を、１領域につき１ページに収めることとした。教育研究会の音楽部部長・各領域部会長・作成担当教員が、これまでの豊富な研究や事例の中から様々な要因を考慮し、各領域のページをデザインした。

3.2 事例収集

「音楽科の基礎・基本」ページの作成にあたり、研究授業における指導要請の機会や、文部科学省主催の各教科担当指導主事連絡協議会への参加など、様々な機会において小学校音楽科の授業づくりの基礎基本となる要素についての資料を収集して作成した。項目は、「小学校学習指導要領解説 音楽編」から目標・内容構成・〔共通事項〕・「共通教材」について記載し、「指導のポイント」

「音楽の可視化」については、音楽科の各領域の指導において共通に意識しておくべき点について記載した。

3.3 考察

「基礎・基本」および他の領域の全てのページについて構成の配置を揃え、順を追ってそれぞれの領域の授業を組み立てることができるよう工夫し、実践に活用しやすい資料だと思われる写真や図などを配置し、構成した。

４．活用と改善

4.1 校内研修資料・指導資料としての活用

「校内研修」「授業研究」の資料・「指導資料」として実際の場面に適用し、モデルの内容がどう組み込まれ活かされていくかを検討することで、モデルの強みと弱みを整理することにした。Ａ小学校を協力校として、校内の研究授業に指導助言者として継続的に関わらせてもらいながら、教員経験年数・音楽経験年数、役に立つと思われる資料などについて、口頭による聞き取りおよび質問紙による調査を行った。

4.2 授業づくり資料としての活用

「授業づくり・教材研究」の資料としてモデルの内容を実際に活用することで授業にどう影響するかを検証することを目的として、Ｂ小学校を協力校としてモデルを活用した授業実践を参観した。また、Ｃ小学校において質問紙を配付し調査を行った。

4.3考察

これまでの調査の結果により、主に次の成果および課題が明らかになった。

〇教員経験年数・音楽経験年数による見方の違いは概ね認められない
〇「活用の必要度」によって資料の見方に差がある
〇すべての項目や内容に対して意見を持つ（述べている）教員は少ない
〇資料の見やすさとわかりやすさ、具体的ですぐに使える資料が求められている
〇「共通教材」と「学習評価」の項目は「役に立つ（立ちそうな）資料」として意見が無かった
〇〔共通事項〕について、用語の記載だけでなく解説や補足資料が必要である

4.4 改善

モデルを改善すべきポイントとして、「様々な『読み手』と場面を想定した内容」「具体的かつ見やすい記述」「指導と評価とが一体となった学習過程」の３点を指摘した。

５．まとめ

今後さっそく「音楽科の基礎・基本」を中心としたモデルの改善に着手し、教育センター指導主事として、モデルのさらなる活用促進について模索していく。さらに、中学校版音楽科「大阪市スタンダード授業モデル」についても、本実践研究で行ってきたことを活かして取り組んでいく。